



野手崎所（画面中央上部）

江刺郡野手崎村諸御給人様御野場分絵図 享保20（1735）年

『梁川伊達家文書』から発見されている唯一の江刺郡野手崎村の絵図。絵図には、川や山などの自然地形のほか、街道や田畑なども記されている。画面中央上部には野手崎所も描かれており、当時の野手崎村の姿がよくわかる。

奥州遺産

— ときを越え

受け継がれるもの —

第123回

梁川伊達家文書

Ⅱ 江刺梁川Ⅱ

奥州市最北の地、梁川。江戸時代には仙台藩領江刺郡に属し、盛岡藩との境界地域だった。ここには、「野手崎所」が設置され、仙台藩一家の小梁川氏が配置されていた。そこに伝来したのが『梁川伊達家文書』である。

小梁川氏は、室町時代に伊達家から分かれ成立したと伝わる。中世から「小梁川」を名乗り、江戸時代には仙台藩の要職を歴任し活躍した。維新後は「伊達」に名字を戻した。

文書の中で最も年代が古いのが、伊達植宗（政宗の曾祖父）からの知行宛行状。その後断続的に文書が残り、江戸時代初期から明治時代にかけては、文書の残存数が徐々に増加する。文書からは、小梁川氏の歴史に加え、仙台藩政や梁川地域周辺の歴史の一端を知ることができる。

これらの歴史は、文書が残っていたからこそ明らかにできるのである。私たちもまた、これらの文書を後世に引き継いでいかなければならない。

広告